

西高 高校生レポート

西高農場は、先端技術の研究・研修、憩い、自然とのふれあいとして開放しています。

西高校では2011年から、労働時間と生産コストの削減が期待できる技術として、年々普及が進む乾田直播栽培を、東北地方の農業高校としては初めて取り組んでいます。県内では由利地域で普及が進む乾田直播栽培ですが、雪解

乾田直播栽培



◀実際に生徒が乗って直播作業を行う

けの影響で土の乾きが遅い能代山本地区では、あまり広がりを見せていません。しかし、ビニールハウスや育苗箱、田植機などの資材コストの削減と、育苗から田植えにかかる労力の低減が出来ることから、農業者の高齢化や減少に伴って注目を集めています。同校での直播作業は、生物資源系列の



▶GPSによる自動運転で作業を軽減

2、3年生が学校田に集まって行われ、栽培管理も生物資源系列の生徒が担当します。直播作業前に、振興普及課職員やサキ東北能代営業所のスタッフから栽培方法や機械作業の説明を受け、さっそく大型トラクターに専用のロータリーを取り付けて作業を開始。またトラクターにはGPS（全地球測位システム）機能が搭載されており、あぜ際以外の直進は自動で制御するため、生徒たちはスタッフの指導を受けながら、実際にトラクターに乗り込んで作業を行いました。同校では圃場30aに「あきたこまち」の種もみを播き、慣行栽培の圃場と比較しながら生育を観察します。また、施肥方法による生育状況の違いを調べるため、30aの圃場で有機肥料の無施肥・播種前に施肥・播種後に施肥の3パターンを検証します。

菜の花農場



西高農場北側の約30aの牧草地を利用して、生徒たちが10年ほど前から栽培している菜の花畑は、5月中旬から見ごろを迎えます。毎年一般の方々にも農場を開放し、春は菜の花、夏はひまわり、秋はコスモスといった季節の花畑を楽しんで頂いております。生徒たちが愛情込めて栽培した菜の花畑は、小さなお子様からご年配の方まで広く愛され、憩いの場として親しまれています。



▶辺り一面の菜の花畑を楽しむ子どもたち

今回は、湛水直播・34株の疎食栽培・7月早取りねぎの定植を掲載します。

